

令和2年度新任図書館長研修
質疑応答書

科目名：地域をささえる図書館サービス

講師名：豊田 高広

質問

議会図書館整備に係る議会連携業務で、人員の増等があったのでしょうか。その他必要経費等あったのであればご教示ください。

(当市においても博物館設置、図書室の整備、中央公民館、小中学校図書室との連携が必要であり、業務量(※)と人員がネックとなっております。)

(※) ネットワークの構築、システム導入を含めた

回答

議会図書館整備に係る議会連携業務で、特に人員の増等はありません。5名のレファレンス担当チーム(人数は事業開始当時、全員2チーム程度の兼務)が分掌することとし、メインの担当者を1名、指名しました。議会連携業務は時期により、業務量に波があるので、通常はメイン担当者1名で対応し、議会質問等に関連するレファレンス等はチーム全体で分担、イベントのようなものは他のチームの力も借りるという形での対応でした。

必要経費も特にありません。議会でよく取り上げられるような地域課題関連の資料に、選書の傾向がシフトするといったことはありますが、予算措置をするレベルではありませんでした。実際の調査においては、インターネット上の情報源、商用の新聞データベース、独自に構築している田原関係新聞記事見出しデータベース等、デジタルの情報源の比重が高く、所蔵資料に加え、それらを駆使する司書の能力が重要となっています。

本事業のためのデジタルネットワークの構築やシステム導入も行っておりません。議会側のネットワークシステム(議員のタブレット端末に事務局からの通知等を送信)は、レファレンス事例の紹介や団体貸出図書の紹介等で活用されています。より重要なのは議会サイドとの人的ネットワークであり、図書館担当者と議会事務局担当者、図書館長と議会事務局長・担当課長・議員の普段のコミュニケーションをベースとした信頼関係の構築が事業の成否のポイントの一つといえるでしょう。また、館全体で事業の意義についての認識を共有し、担当外も随時、業務を支援したり、蔵書構成に議会連携や行政支援から得たニーズに関する洞察を反映することも重要です。

令和2年度新任図書館長研修
質疑応答書

科目名：地域をささえる図書館サービス

講師名：豊田 高広

質問

① 地域課題へのアプローチについて、県立図書館と市町村立図書館との役割の違いがあると思うのですが、どのような棲み分けがあるとお考えでしょうか、教えていただければありがたく存じます。田原市図書館の事例を県立図書館でチャレンジしようとするとき、どのような点に注意や配慮が必要なのかを知りたく存じます。

② 利用者は圧倒的に高齢者が多く、社会や時代の変化に合わせたサービスや支援に取り組もうとしても、従来の貸し本、読書空間といった旧態然とした利用に固執されて、なかなか受け入れていただけないケースがありますが、どう克服していけばいいでしょうか。

回答

①について

課題解決支援においては、図書館以外の機関・団体との連携が重要になります。市町村やその中のコミュニティレベルの地域連携で取り組むべきか、それ以上のレベルで取り組むべきかによつての棲み分けは考えられるかもしれませんが、しかし、より重要なのは、都道府県立図書館と市町村立図書館の間（そして市町村立図書館同士）の連携による取り組みという視点ではないかと思えます。田原市図書館においても、特に、地域の魅力を発信するという観点で、愛知県図書館や隣の豊橋市図書館と、それぞれの得意を生かす形でさまざまな連携の取り組みをしていました。

②について

高齢者も多様であり、パソコンを使いこなしロックを愛するアクティブな高齢者も少なくないはずですが。そうかと思えば、高齢者ではないけれど「旧態依然な利用」に固執する人も多いでしょう。結局、年齢の問題ではなく、図書館（に限らず全てのサービス業）は従来の利用者に適合したサービスを提供し続けるのが、楽なのかもしれませんね。いつかは、それでは立ち行かなくなる時がくると分かっている。その認識を内部で徹底する（意識変革）こと、想定する潜在的利用者の動向の把握に努める（マーケティング）こと、この二つが必要ではないでしょうか。本年度の全国図書館大会第2分科会では、こうしたことにも触れられています。私もパネルディスカッションに参加しています。ご視聴いただければ幸いです。